



SSH通信

第59号

令和8年度 第1回探究発表会

令和8年7月21日 発行

東京都立富士高等学校

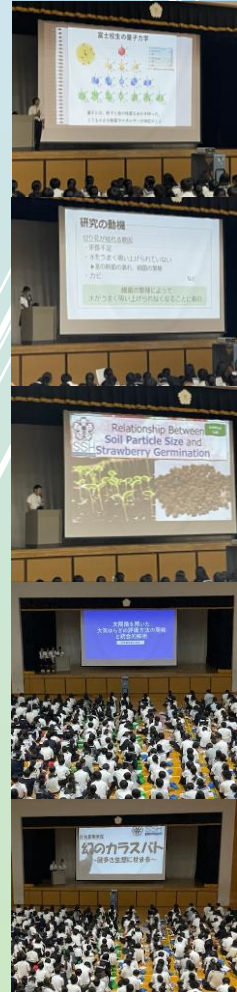
東京都立富士高等学校附属中学校

〒164-0013 東京都中野区弥生町五丁目21-1

電話 03-3382-0601

最寄駅 東京メトロ丸ノ内線 中野富士見町駅

6月20日（土）に探究発表会が行われました。体育館で開会式と代表発表が行われ、代表生徒の堂々とした姿を見ることができました。生徒のコメントやSSH運営指導委員の方々のコメントの一部を紹介します。



開会式・代表発表（体育館）

○SSH運営指導委員の佐藤友久先生の挨拶

最近、研究の世界でもAIを使用する人がかなり増えました。しかし、ただ疑問をそのまま聞くだけでは、正しい答えが必ず返ってくるとは限りません。研究においてAIを使いこなすには、何をどう聞くかを深く考える日本語力と、科学的知識が必要であり、どこで使ったかを明記する必要があるということ覚えておいてください。

○京都大学 名誉教授 馬場正昭先生の招待講演『富士校生の量子力学』

量子とは、とても小さな物質やエネルギー単位のこと、遺伝子情報であるDNAも量子コードといえ、生命も量子力学で理解できます。すなわち、量子力学は半導体や、レアアースだけでなく、生命にも深く関わるものであり、富士山型探究者を目指すうえで非常に重要な分野だと思います。ぜひ興味があれば、本などを紐解いてみてください。

○高校2学年の代表生徒による発表へのコメント

「家庭用抗菌剤の種類と濃度が切り花の日持ちに与える影響」

- ・大きなことではなく、本当に日常の一つの疑問を探究していたため、とても身近なものに感じました。根拠や研究方法をすごく丁寧に詳細を書いていた点が分かりやすく良かったと思います。
- ・日持ちが終わるかどうかを単純に見ただけで判断するのではなく、数値でだれが見ても分かるように、pHや萎れて折れてしまった角度などを調べて結果を出そうとするのが良い点だと思いました。

○高校3学年の代表生徒による発表へのコメント

「The Relation Between Strawberry Germination and Size Soil」

- ・英語がとても流暢であり、研究発表する事が難しい中、中学生にも分かりやすく伝えてくれました。
- ・英語での発表にもかかわらず自信を持って取り組んでいたことが素晴らしいかったです。内容においても非常にレベルが高く、とても面白かったです。

○科学探究部天文班の代表生徒による発表へのコメント

「太陽像を用いた大気ゆらぎの評価方法の開発と統合的解析」

- ・シーリングなど、私たちに想像しにくい、分からない言葉が分かりやすく、画像、図によって効果的に説明されていた。シーリングの調査からさらに発展させて研究されていてとても良いと思いました。
- ・富士の天文台を生かして、太陽像の分析から解析をする技術を積極的に取り入れていてすごいと思いました。

○東京都立国分寺高等学校の代表生徒による発表へのコメント

「幻の鳥カラスバト～謎多き生態にせまる～」

- ・とても引きつけられる発表でした。音声、GPSによって多角的な視点から検証されていて良かったです。
- ・他校の生徒がどのような研究をしているか知る機会が減多にないのが貴重な経験でした。島に実際に行っている観察などしているのは、本格的で楽しそうだと思いました。

○SSH運営指導委員の朝山章一郎先生からのコメント

高校2年生の代表発表は、花を楽しみたいという純粋な動機に基づいた非常に素晴らしいテーマでしたし、高校3年生の方も、いちごという身近なものを扱っていてとても興味深かったです。天文班の発表については、思い通りの結果にならないというのは探究の醍醐味なので、引き続き楽しみながら続けてほしいと思います。国分寺高校の発表については、富士の皆さんにとっていい刺激になるような素晴らしい発表だったと思います。ワールドカップが開催されていますが、シュートを打たない点は入りません。探究も同様に、湧き上がる興味から挑戦することを楽しみながら頑張ってください。



中学1学年「探究とは何か」

○生徒のコメント

- ・自分の発表と先輩方の発表を比べることで、自己改善の力が高まりました。
- ・探究発表会を通して、相手に伝えるようにするためには、聞きやすい声の大きさや質問への対応、分かりやすいポスターなど、たくさん意識することがあると分かりました。

○SSH運営指導委員の坂井秀敏先生からのコメント

第一に、探究とは、調べ学習と何が違うんだろうということを意識して考えて欲しいということです。第二に、自然科学や理科は、誰が実験をやっても同じ結果になるような客観性が大事だという前提で、様々なことを考える分野であるということです。第三に、相手を尊重しながら話をしたいということです。

中学2学年「探究者の資質とは」

○生徒のコメント

- ・探究発表会を通して色々な人のポスターを見ていくうちに、一つのことに多面的に考えることでより説得力が増すということが気が付き、この講座の後には、多面的に考えることを意識できるようになりました。
- ・中学1学年から高校3学年まで、色々な学年の発表を見たことで、自分の発表に生かせる点を多く学び、実際に意識して見ることができました。

○SSH運営指導委員の清水政義先生からのコメント

人前で話すことはとても難しいことですが、自分の思っていることをうまく発表するためには、ポスターに書いてある内容の何倍もの準備をすることがとても大事だと思います。最近AIが発達していますが、自分自身の感性で感じたこと、受け止めたことを言葉にする経験を積み上げておくことが大切です。



中学3学年「プレ課題研究に向けて」

○生徒のコメント

・探究発表会の前では、自分が理解できれば問題ないと思っていましたが、探究発表会で生身の人間に説明することを通して、より客観的で人が理解できて、信憑性のある信頼できるポスター発表を目指すようになりました。

・高校2年生や高校3年生の発表を聴き、独創的な研究テーマや検証方法にたくさん触れたことで、科学的に課題を解決する方法を知り、来年からの富士未来学への見通しをもつことができました。

○SSH運営指導委員の佐藤友久先生からのコメント

どんな分野の研究においても、再現性、信頼性のあるデータを探して検討することが必要です。また、今回の理数探究の講座については、皆さんよく理解できていると思いますが、今回学んだことと、普段の授業の内容をプレ課題研究に生かしてみingことを意識してみてください。



高校1学年「課題発見に向けて」

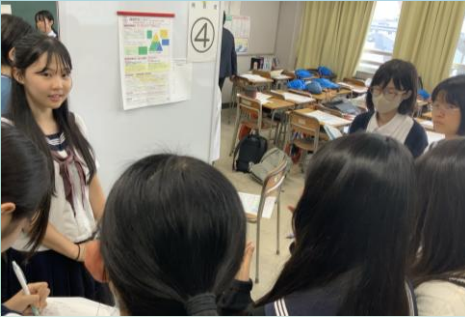
○生徒のコメント

・他学年の発表を聴き、どのようなデータがあると信頼性が高まるかなどを知りました。

・先輩たちの発表では英語を駆使しながら自分の思考を発表することはとても難しいが、誰もがしっかりと発表ができておりとても感動しました。後輩たちの発表では、自分も今まで発表したことがある内容だったが違う視点、違う考え方が多く、見ていてとても楽しかったです。

○SSH運営指導委員の鍋島史一先生からのコメント

今回の発表会は発表するだけでなく、質問を受ける良い機会になったと思います。質問されることで、自分の分かっていることに気付くことができたかと思ひます。また、探究活動とは、答えを見つける活動ではなく、問いを新たに作っていく活動だと捉えてみると新たに何か見えてくるかもしれません。



高校2学年「課題研究（中間発表）」

○生徒のコメント

・より明確な独立変数、従属変数を設定することの重要性、そしていかに他の要因を固定させられるかを改めて学ぶことができました。

・発表で有識者からもらったアドバイスなどから、これからどのように実験をするのかのヒントになり、また改善する部分を吸収して、自分のものにすることができました。

○SSH運営指導委員の松本真哉先生からのコメント

これから進路について考える時期かと思ひますが、探究を含めた普段の勉強から、能動的に興味・関心に沿って学んだ結果を、進学やその先に繋げる意識をもって積極的に取り組んでみてください。次の発表までに様々なアイデアに触れて、より良い探究になっていることを楽しみにしています。



高校3学年「課題研究（英語）」

○生徒のコメント

・初めての英語での発表で上手く発音ができないような難しい言葉も多かったためすごく不安でしたが、実際に自分で噛み砕いて説明したらちゃんと分かってもらえて解決力が上がったような気がしました。

・聴き手に理解してもらうためには、英語の正確さだけでなく、話す速さや発音、スライドの見せ方も重要であることを学びました。

○SSH運営指導委員の朝山章一郎先生からのコメント

海外から来てくれた方にもためらわず、積極的に議論していたのが、非常に良い姿勢だと感じました。今後、日本語から英語に翻訳する、または英語で文章を書くときには、ただ変換するだけでなく、どのように変換されているかを意識して欲しいと思ひます。探究活動という、座学の勉強とは違った教科書のない活動は貴重な財産です。今後の成長を期待しています。



外部生徒による発表

東京都立国分寺高等学校、中央大学附属高等学校、東京都立多摩高等学校、東京都立南多摩中等教育学校、アンノ・ギムナジウム（ドイツ）の生徒が発表者としてポスターセッションに参加してくれました。本校の生徒からは「富士の生徒だけではなく、様々な人の発表を聞くことで思いがけない収穫がありました」「身近なところにあった探究テーマに気が付くことができました」といった感想が聞かれました。

代表発表（オンライン）

開会式の高校2学年と高校3学年に加え、中学1学年から1名、中学2学年から1名、中学3学年から1名、高校1学年から1名、高校2学年から4名、高校3学年から2名を選出し、対面のポスターセッションと同時並行で、オンラインによる代表発表が行われました。多くの方に視聴していただきました。



富士未来学係による運営

探究発表会は、富士未来学係の生徒が中心となって運営しました。開会式やオンライン発表の司会、開会・閉会宣言、「富士未来学係賞」の選出など、大活躍でした。富士未来学係の生徒が作成した看板も大変好評で、探究発表会を盛り上げてくれました。



参加者のコメント

○探究発表会に参加された方のコメント

・身近な事象や興味があることに自由に取り組み、自分で根拠を調べ、実験を行い、確認して研究・発表し、第三者の専門家の方達から更に助言を受けることができる場があることは素晴らしいと思ひました。

・中学1学年から高校3学年までの6年間の成長ぶりに目を見張りました。中学1学年を中心にそれぞれポスター発表に創意工夫がされて合宿の成果を見ることができました。来年2月が更に楽しみです。

・自分の興味のあることを中心として生き生きと取り組む姿が印象的でした。結果はうまく出なかったとしても、彼らのやる気がこれからも維持され、将来につながってほしいと感じました。

情報交換会

探究発表会終了後、教育関係者対象に情報交換会を開催しました。約30名の教育関係者の方々が参加し、「探究活動で育成する資質・能力とは」や「理想の探究発表会とは」をテーマに情報交換をしました。多くのご意見をいただき、今後の探究活動を考える良いきっかけとなりました。